



一日(月)に、学校運営について、地域の皆様からのご意見やご提案をお聞きする「せせらぎの会」の第一回会合を開きました。学校から現状と今後の予定について紹介した後で、参加者の方からのご意見を伺うという形で会を進めさせていただきました。出席者は三名と少なめでしたが、いづれも本校の教育に高い関心を寄せている方ばかりで、限られた時間の中で、非常に自身の濃い話し合いができました。

参加者の中には、本年度、特認校制度を活用して本校に入学した児童の保護者の方が含まれていました。その方は、本校への入学を決める過程で、体験入学や学校見学の期間をもう少し長めに設定することができないかと感じたそうです。また、この特認校制度の認知度がまだまだ低いという印象も受けたそうです。

また、会に参加した学校運営協議会委員からは、今月中旬に四・五年生が参加する山の学習の活動において、多くのボランティアを必要としているが、もし必要な人数が集まらなければ、それを学校運営協議会で補ってはどうかというご提案をいただきました。

お寄せいただいたご意見は、学校運営協議会で検討させていただきます。そして、必要に応じて

じ、学校運営協議委員会の意見として、市や教育委員会等の関係機関に要望をさせていただきます。「せせらぎの会」は、今後も定期的開催していききたいと思えます。次回は七月三日(金)を予定しています。ご都合のつく方は、ぜひご参加ください。

本校には、教員補助者として野中和美さん、校務支援員として富田裕美さんと中道保奈美さんの計三名が非常勤で勤務をしてくれています。前に立つて指導することこそありませんが、**子供たちの感性を育むという観点から、学校にはなくてはならない方たち**です。さくら階段に掲示したイラスト看板や運動会スローガンの横断幕、オープンスペースの書架の整頓など、これらはすべて三人の方が手がけてくれたことです。

読書週間の初日、校長室に入ってきた中道さんからこのような提案を受けました。
「先生、一年生の子たちに、しおりを作ってあげてもいいですか。」

自分がどこまで読み進めたか、次はどこから読めばいいかを覚えておくためのしおりを、新着図書のカバーを活用して作ってもいいかという提案でした。**こうした細やかな気配りが、読書の楽しさをより一層感じさせ、本好きな子供たちを育てることにつながっていると**感じました。